

LRT整備事業

芳賀・宇都宮東部地域(優先整備区間)のLRT整備の概要

優先整備区間 計画概要	
営業キロ	約15キロメートル(複線)
事業方式	公設型上下分離方式
営業主(上) 整備主(下)	宇都宮ライトレール株式会社 芳賀町、宇都宮市
停留場数	19カ所
トランジットセンター 想定箇所	5カ所
導入車両	低床式車両(LRV)17編成 (車両長約30メートル)
車両定員	155人(最大輸送力232人)
運転最高速度	時速40キロメートル
需要予測	1日あたり16,318人(平日)
運転時間帯	午前6時台~午後11時台 (JR宇都宮駅の新幹線の始発・終電に対応)
運行間隔	▽ピーク時 6分間隔 (1時間あたり10本) ▽オフピーク時 10分間隔 (1時間あたり6本)
所要時間 (起終点間)	▽普通電車(各停留場に停車) 約44分 ▽快速電車(一部停留場を通過) 約37~38分
運賃	初乗り150円~400円(対距離制)
JR宇都宮駅東口 から主な停留場 までの所要時間・運賃	普通電車を利用した場合 ▽ベルモール前 約11分 150円 ▽清原工業団地北 約27分 300円 ▽本田技研北門 約44分 400円
運賃収受方法	ICカードシステム導入 (ワンマン運転)



凡 例	
	トランジットセンター想定箇所
	停留場 ※名称は仮称



▲ストラスプールの(L)のLRT



▲導入を検討している30メートル級車両の事例(福井鉄道 FUKURAM)

LRTの導入

LRT(次世代型路面電車システム)は、各種公共交通との連携や、低床式車両(LRV)の活用による乗降の容易性などの面で、優れた特長のある交通システムです。従来の路面電車と違い、高いデザイン性を備え騒音や振動が少なく快適な乗り心地など、人と環境に優しい乗り物です。

芳賀町における導入検討の経緯

LRT事業については、宇都宮市が平成25年3月に策定した「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」において、桜通り十文字付近から宇都宮テクノポリスセンター地区までを全体計画区間とし、このうちJR宇都宮駅東側から段階的に整備するものとしています。

本町では平成25年10月に芳賀町長・芳賀町議会議長の連名で、芳賀町内までの延伸について、工業団地までの区間を当初延伸区間として検討すること、宇都宮市と同時期での整備、また早期の運行を目指し、協力・連携

しながらともに検討を進めていくことなどの内容で、宇都宮市長及び宇都宮市議会議長宛に要望書を提出しました。

その結果、LRT事業について、宇都宮市と連携を図りながら一体的に取り組んでいくこととなり、市と町で「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」を設置し、LRT整備の具体的な検討を市とともに進めてきたところです。

新会社「宇都宮ライトレール株式会社」の設立

LRT事業の運営を担う「宇都宮ライトレール株式会社」が平成27年11月に設立され、代表取締役社長に宇都宮市の高井徹副市長、取締役副社長に本町の上野哲男副町長が就任し、常務取締役に元広島電鉄株式会社の中尾正俊氏を迎えました。

この会社は、行政とともに地元経済界や公共交通事業者、金融機関の出資により設立された官民連携の会社です。このうち、本町の出資額は1,530万円、宇都宮市と合わせた行政の出資割合は51パーセントになります。